

2026年度 大学入学共通テスト 英語 リスニング(本試験) 分析

試験時間 30 分(音声)

難易度	出題分量	出題傾向
全体 やや難化 第 1・2 問 易～標準 第 3・4 問 標準 第 5・6 問 標準～やや難	変化なし 例年通りの分量だった。イラストやグラフの問題も例年通り複数出題された。	ほぼ変化なし 昨年に続き、様々なパターンの出題があった。例年よくある簡単な計算問題は出題されなかった。第 5 問では問題の「場面」を前もって確認する時間が長めに取られた。
総評 例年同様に第 3 問以降の 1 回読み部分から以降、特に第 5 問の難易度がやや高かった。聴き取る英文は標準的でも、短い解答時間の中で数ページにわたって選択肢を処理していくためには、相当程度選択肢の下読みが必要であろうと思われる。リーディングと同様、「高い英語力」はもとより、情報を瞬時に処理する力がますます求められている。		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第 1 問	モノローグ	28点	A:短い文を聴き、内容に一致する選択肢を選ぶ形式。第 3 者の発話のものと、本人の発話のものとがある。 B:短い文を聴き、その内容が正しく表現されているイラストを選ぶ問題。発話の前半で選択肢が 2 つに絞られ、後半で最後の 1 つに決まる仕組みが多い。
第 2 問	ダイアローグ	12点	会話を聞いて、内容が正しく表現されているイラストを選ぶ問題。解答にはならない選択肢に描かれている単語(例:9 ウサギ等)も会話中に出現するため、断片的に単語を拾うのみでは正解できないものもある。バーチャルリアリティ等の語も出現。
第 3 問	ダイアローグ	18 点	会話を聴いて、英語で書かれた問に答える問題。友人同士の会話や、ホテルのフロントでの会話など、様々な場面での会話が展開される。問題冊子に場面の説明もあり、問題文・選択肢と合わせて場面もしっかり把握してから聴くことが重要。

第 4 問	A:モノローグ B:ダイアログ	12 点	A:目的地への行き方や、イベントの内容を説明する文を聴き、イラストや図表で答える。話の流れに沿って時系列にイラストを並べる設問もあったが、ひとつ余分なイラストも含まれており、正確な聴き取りが必要となる。 B:複数の学生が自習スペースについて意見を述べ、条件に合う場所を選ぶ。様々なアクセントの発話者が登場し、必ずしも全ての条件について言及しているわけではないため、最後まで注意して聴く必要がある。
第 5 問	魚の養殖についての講義	16点	大学で水産学についての講義を聴き、それについてのワークシートを完成させる。状況やワークシートを先に読み取る時間(無音)が長めに与えられるため、その間に選択肢等を素早く読み取る必要がある。後半には追加の資料も示され、前半部分でも理解が浅いと解答しづらくなる。
第 6 問	A:ダイアログ	14 点	A:2 人の学生がフランス語の授業について検討している会話。1 名が最初の気持ちと心変わりするので、聴き逃さないようにしたい。 B:3 人の学生がイヤホンでの音楽の聴き方について意見を出し合う。問題が求めていること(例:「以前よりも」音量を下げようと思っている…)をしつかりとらえて解答しなければならない。後半のグラフ読み取りは、一見難しそうに見えるがグラフのタイトルを先読みで押さえておくことで、素早く解答できる。

来年以降の受験生へ ワンポイントアドバイス

全体の形式は例年と同じで、第 3 問以降が 1 回読みでした。リスニングが苦手な受験生にとっては、音声で 1 回流れるだけでは解答が難しいかもと、心理的ハードルが高くなるのは当然ですが、第 3 問、第 4 問は基礎的な英語力さえあれば十分得点できるレベルの問題です。リスニング力向上はもちろん、過去問等で形式に慣れ、アナウンスの合間に問題文や選択肢に素早く目を通す練習もしておきましょう。国公立希望者や外国語系統希望者は、第 5 問、第 6 問でどこまで素早く処理できるかが勝負になるでしょう。過去の問題を参考に、本番への準備を進めてください。